

歌があふれる学び舎 驚きの光景・バトル練習！

最年少は3年生、上は9年生までが集う実力校。
キラリと光る音色の源は、日常に歌がともにある
という校風、独自の練習法にあり！

さまざまな体験を音楽につなげて

新 宿駅から小田急線に
乗り約30分。玉川学
園前駅を降りると、
目の前にある正門から授業を終
えた小学生たちが元気よく歩い
てきた。保護者の方と今日の出
来事を話しながら帰宅していく
幼稚園児たち。その横を学術書
を抱えた大学生がにこにこしな
がら行き過ぎていく。

12度目の全国切符を手中にし
た玉川学園中学部は、幼稚園か
ら大学院、研究施設までが集う
61万平方メートルの巨大なキャ
ンパスの中に位置する。姿勢を
正し向かった校舎の前にはトロ
ンポーン、ホルン、トランペッ
トの練習に打ち込む生徒の姿が
あった。大きな窓が印象的な校
舎に入ると、練習音が漏れ聞こ
えてきた。

胸を躍らせ校舎2階の音楽室
の戸を開くと部屋いっぱいにな
んだ部員たち。あいさつを終え
ると、楽器を傍らに置きすつと
立ち上がった。楽器を持たない
生徒に指揮棒を向ける土屋和彦
先生。始まったのは、歓迎の歌。
「新しい友を迎えうれしく思う」
という内容の歌を土屋先生も一
緒になり歌っている。素晴らし
い出迎えに拍手で応えた。

玉川の学園生活は「歌に始ま
り、歌に終わる」と言われる。
吹奏楽部員はもちろん、グラウ
ンドで白球を追う野球部の男の
子も、研究に打ち込む理系の生
徒も、朝はあいさつの歌、食事
の際には感謝の歌を歌う。学び舎
に響く校歌は混声四部合唱。真
つ赤なスパイクがまぶしいサッ
カー部の生徒たちも、準備運動
をしながら楽しそうに歌ってい
た。

歌は演奏の 強い味方

白いタクトを持った土屋先生
が教壇に立つ。課題曲Ⅱ「行進
曲「勇気のトビラ」」の演奏を